

こどものきもの (第1報)

女兒服に関する実態調査

荻野千鶴子・滝川順子・秋田峯子
豊田幸子・山田奈津子・大島厚子

The children's wears (Part 1)

The research on the actual condition of the little girls' clothes

by

C. OGINO, J. TAKIKAWA, M. AKITA
S. TOYODA, N. YAMADA and A. ŌSHIMA

緒 言

従来、婦人服については、あらゆる面からの研究が進められているが、これに比べて子供服は、婦人子供服との呼称があることから、大人の縮小した内容のものであり、問題点が多いと考えられる。子供は、身心の発達が著しく、かつ発達過程が年令的に特徴があり、きものに及ぼす影響が大きいと予想される。さらに子供の生活には、発達段階に応じた衣生活が考えられ、それ故に、しつけの面においても、以上の点との関連において、適切な指導のなされるのが妥当ではないかと考えられる。第1報では、しつけに関係があると考えられる子供服——特に女兒服のあきの位置、方法、留具等に注目して、実態を調査し、それらの既製服、ならびに家庭で着用されている状態について、さらに衣生活における母親のしつけに対する考え方、および態度について考察し、さらにデザイン上の飾り、ポケット、衿等について調査した結果を報告する。

市販されている女兒既製服について (夏・合服)

1. 調査対象

名古屋市内のデパート4か所(名鉄、丸栄、オリエンタル中村、松坂屋)を主体として、その他小売店および、地方との差をみるため参考として東京、豊橋、京都、大阪各々市内のデパート1か所をえらび、そこで販売されている女兒既製服(夏服……152着、合服……489着)を対象とした。

2. 時期

第1回 昭和41年8月

第2回 昭和41年10~11月

3. 方法

先ず第1回目は、女兒既製服売場において並べられている服の中から、ワンピース、ブラウスの同一服種を除いた総計152着について、あきを中心にして子供服として重要な条件である材質、価格、規格と寸法、装飾の種類、あきの位置と寸法と留具、ポケットの6項目につき実

態を調査した。この結果、地域差はみられずまた、規格、寸法もメーカーによりほぼ同じ傾向にあったため、第2回目は合服について脱ぎ着に最も関係の深いあきの位置、寸法、留具の3項目につき総計489着を名古屋市内のデパート4カ所にて実地に調査した。

4. 結果および考察

(1) 材 質

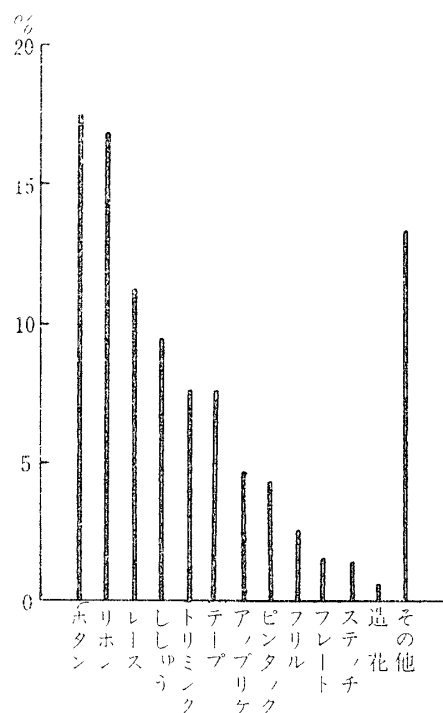
第1回目の調査は8月であったため、材質はポリエステルと木綿の混紡が55%で最も多く、次いで木綿が27%であり、次にアセテート、アクリルの順であった。これは夏の衣料として、従来は純綿がその殆んどを占めていたが、最近化学繊維の進出が著しく、木綿と化学繊維との混紡によって、よりよい衣料品となった。これは需要者が化学繊維に対する認識を深めた結果と考えられる。

(2) 価 格

価格としては、夏のワンピースで最高が6,000円、最低が500円で平均として1200~2,000円位という結果であった。

(3) 装 飾

子供服において、かわいらしさを表現するものとして、まず装飾がある。装飾の種類(第1図)はボタン、リボンが最も多く、ついでレース、ししゅう、テープ、トリミングが多く見られた。なお、年齢別にみると、2~3才はリボンが最も多く、4~5才はボタンが多かった。ついで2才ではボタン、3才ではししゅう、4~5才ではリボンであった。以上の結果、ボタン、リボンが多いのは手軽に取扱い、また価格も手頃なところからと考えられる。



第1図 装飾の種類

装 飾 数	※ G 2		※ G 3		※ G 4		※ G 5		計	
	枚数	百分率 %	枚数	百分率 %	枚数	百分率 %	枚数	百分率 %	枚数	百分率 %
1 種類	4	11.4	11	25.0	3	12.5	5	13.8	23	16.5
2 種類	19	54.3	25	56.8	12	50.0	12	33.3	68	48.9
3 種類	12	34.3	8	18.2	9	37.5	19	52.9	48	34.6

第1表 装飾数 (※ JIS規格表示方法に基づく)

次に装飾の数は(第1表)G2, G3, G4は何れも2種類が多く、G5では3種類が多かった。面積の小さい子供服に2種類又はそれ以上の装飾を施すことは、取扱い上や実用上から見てもやや過剰と考えられる。

ポ ケ ッ ト

子供の服として必然的要素と思われるポケットの有無については、有が85%であり、その種類は、スラッシュポケットが77%、はりつけポケットが23%であった。これらは全体に実用的なポケットは少なく、口明き寸法の小さいものや、つけ方が不良であった。スラッシュポッケ

トが多いのは、デザインを豊富にして、ポケットをつける余裕がない反面ポケットの必要が認められている点などから、見えない所につけるからと考えられる。

(4) あきについて

以上、子供服の条件的なものを取上げてきたが、ここで家庭での衣生活に対する子供のしつけ上に、重要であると考えられるあきについて、その位置、寸法、留具等について調べた。

あきの位置

2才から5才までの全年令を通じ、あきの位置は、前と後が非常に多く、肩、その他はほとんど見られなかった。夏服のワンピースにおいては、後あきが72%で圧倒的に多く、その他は前あきであった。合服もこれと同じく後あきが多く88%の高率を示した。これは、子供服として前身頃にレース、ししゅう等で装飾する目的で、後身頃にあきをつけるのがデザインの上から容易であると考えられる。しかし、後あきは1人での脱ぎ着は困難であるから、子供のしつけの面からは考慮する必要があるものと考えられる。

あきの寸法

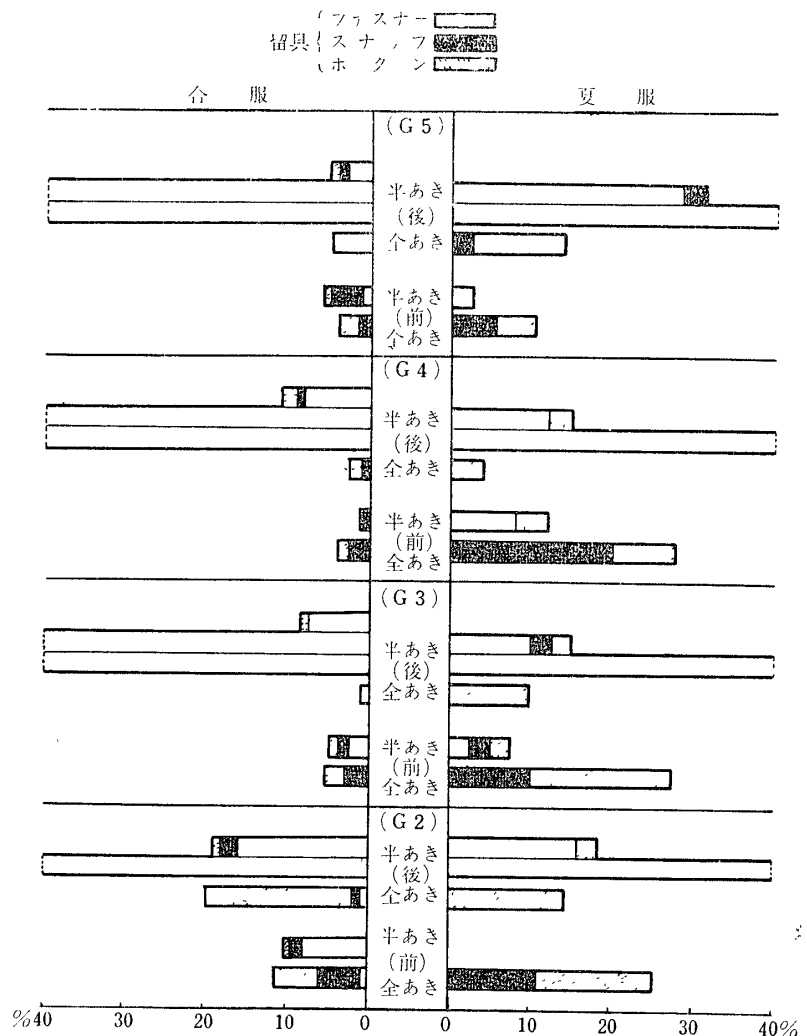
あきの寸法としては、衿から裾まであいているものを全あき、衿からウエストあるいは、着丈の途中まであいているものを半あきとして表わした。

夏服の場合、各年令とも後半あきが50%以上の高率を示し、前半あきが最も少なかった。合服においても後半あきが多く、2才の58%を除き、3、4、5才はすべて85%以上の高率を示した。

以上の結果、後半あきが最も多く夏服60%、合服81%の高率を示した。これに反し少ないのは、夏、合服共に前半あきが6%を示した。後半あきはデザインの面から好ましいが、上述のようにこの場合も問題があると考えられる。

留具について

夏服の留具は、フラスナーが59%で最も多く、ループかけが0.8%で最低を示している。



第2図 あきの寸法と留具 (ワンピース)

合服においては、後半あきファスナーは2才56%、3才88%、4才89%、5才83%であり、いずれの年齢においても最高値を示している。最低値は2才では前あきの場合、全あきのファスナー、半あきのボタン、3才では前半あきスナップ、後全あきファスナー4才は後全あきスナップ、5才においては前半あきファスナーとボタンがいずれも0.8%であった。(第2図)

要約すると、留具においてファスナーが1番多いことは、ボタンにくらべ経費のかからないこと、縫製上ボタンほどの手間かかからないこと等から婦人服の縮少がこの点でもみられる。なお、ボタンの大きさについては(第2表)1.5cmが69%、1cm以下が21%、2cm以上が10%の順になった。小さいボタンの多いのは、デザイン的にみて手頃なつりあいから多く使われているのではないかと思われるが、脱ぎ着の難易さにおいては考慮の余地がある。

	G 2		G 3		G 4		G 5		計	
	枚数	百分率 %	枚数	百分率 %	枚数	百分率 %	枚数	百分率 %	枚数	百分率 %
1.0 cm 以下	2	18.2	1	7.7	5	55.6	1	11.1	9	21.1
1.5 cm	8	72.7	11	84.6	3	33.3	7	77.8	29	69.4
2.0 cm	1	9.1	1	7.7	1	11.1	1	11.1	4	9.5

第2表 ボタンの大きさ

家庭における女兒服に関する実態調査

1. 調査対象 名古屋市及びその周辺における2～6才の女兒のいる家庭
2. 時 期 第1回 昭和41年8月～9月
第2回 昭和41年11月
第3回 昭和41年11月
3. 方法 第1回：しつけに対する母親の考え、態度を知る目的で、地域・母親の年齢・家族構成人数・姉妹の有無等の違いによるあきの影響について調べた。調査形式は、家庭の訪問及び家庭へ調査用紙80枚を配布し、母親の記入したものを回収した。回収率は、65.0%であった。
第2回：1回目では上記4項目の相違による確証が得られなかったため、それに基づいてしつけの面を重視し、あきの数的な傾向を求める目的で、市内幼稚園1か所、市外保育園1か所の園児を通して80枚の調査用紙を配布し、その他幼児をもつ家庭を21世帯訪問して、いずれも質問形式により母親に記入してもらった。回収率は56.3%であった。
第3回：2回目の傾向に基づいて、あきの方法、留具の種類によって、「着る」「脱ぐ」ことが可能かどうかを知る目的で、本学学生に調査用紙を配布し、実際の観察による結果を記入してもらった。有効解答枚数は、75枚であった。

4. 結果並びに考察

第1～3回の調査対象として現われた服種では、ワンピースとブラウスが顕著であったから、以下、それらの服種について取上げる。

a. ワンピースとブラウス

(1) あきの位置と留具の種類

ワンピースにおいては(第3表)、あきの位置は前と後のみでその他はみられず、後あきは73%の高率を示し、いずれの年齢においても前あきより後あきが多く、特に4、5、6才では80

%以上でⅡの場合と同じ傾向が見られた。

年 令	ワ ン ピ ー ス					ブ ラ ウ ス				
	あきの位置		留 具 の 種 類			あきの位置		留 具 の 種 類		
	前	後	フ	ボ	ス	前	後	フ	ボ	ス
2	44.4	55.6	44.4	22.2	33.4	80.0	20.0	—	40.0	60.0
3	21.7	78.3	60.9	17.4	21.7	88.9	11.1	—	33.3	66.7
4	18.5	81.5	40.7	54.3	64.9	84.2	15.8	—	36.8	63.2
5	19.8	80.2	40.7	19.8	16.2	92.8	7.2	—	43.5	56.5
6	16.2	83.8	18.6	25.9	18.9	96.6	3.4	—	48.3	51.7
	27.2	72.8	54.2	22.0	23.8	91.6	8.4	—	42.8	57.2

第 3 表 あきの位置と留具の種類

(フ…ファスナー
ボ…ボタン %
ス…スナップ)

ブラウスでは、前あきがいずれの年令においても80%以上であり、全体では92%という頗る高い率を示している。

留具の種類としては、全体的にみてファスナー、ボタン、スナップが圧倒的に多く、その他としてループがけがわずかにあるに過ぎなかった。

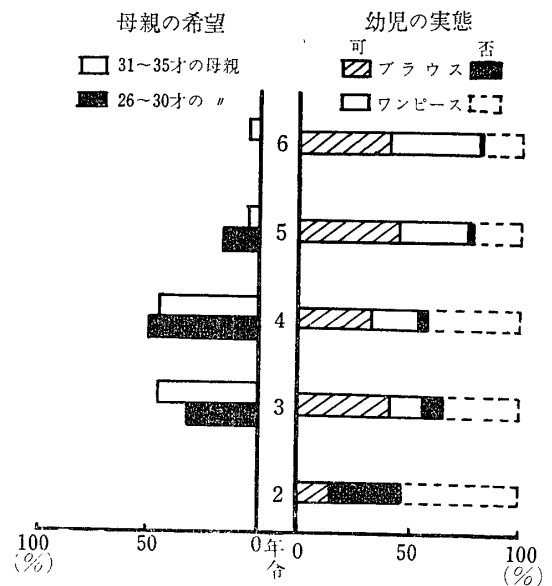
ワンピースにおいては、ファスナーが最も多く54%を占め、ボタンとスナップはほとんど同じ程度であった。しかし、ブラウスでは、ファスナーは皆無であり、スナップが57%でボタンよりやや上まわった。

以上のように、後あきのワンピースでは、体の背部における運動量の多い点から考えて、留具は、簡単にはずれたり、布と留具の間に隙間ができ肌が見えたりしないこと等の条件が要求されるから、実用的で丈夫なファスナーが最も多く使用されている点は、合理的であると考えられる。しかし、婦人服と異り、子供自身による脱ぎ着の面では先に指摘したように、好ましくない傾向である。

一方、ブラウスの場合は、本調査においてはファスナーの使用がみられなかったが、これはファスナーの金具と、比較的柔らかいブラウス地とが合わず、ブラウス地が負けてしまうので、実際用いられている場合が少ないのではないかと推測される。更にボタンよりスナップが多いのは、仕立の上からの容易さがあると考えられる。

(2) 着衣と年令

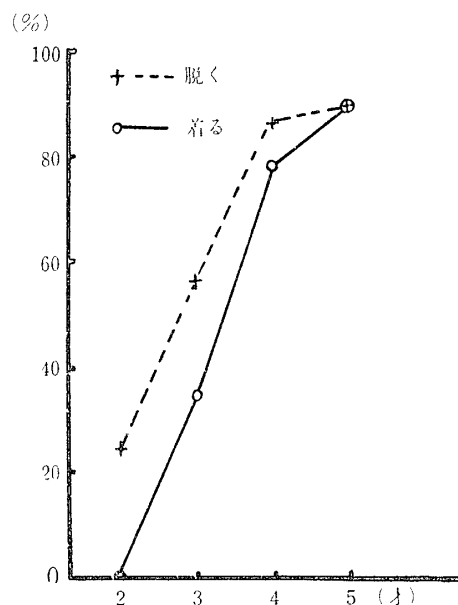
母親が、衣服を1人で着る習慣をつけたいと望んでいる幼児の年令は(第3図)、4才が最も多く、ついで3才である。これを母親の年令層



第3図 着衣と年令

からみると、20才代の母親より30才代の母親の方が、考え方が厳しい傾向にある。これは、20才の母親では第1子が多く、30才代になれば、2子またはこれ以上の子供があるために、自然手がまわりかねて、しつけの面でも厳しくなるものと思われる。また、これを母親のみた幼児の実態は、2才で着衣ができるといわれるのはわずか14%であって、これはブラウスに限られ、その後、年を重ねる毎に着衣の割合は上昇していくが、5才まではワンピースよりブラウスが多い傾向にある。この点は前述のように、ワンピースは後あきが多いが、ブラウスはほとんど全部が前あきになっていることによると考えられる。しかし、6才になっても、まだ20%の幼児が着衣のできないのはワンピースに多く、婦人服でも困難な後あきファースナーが原因していると考えられる故に、母親として幼児服を選ぶ場合は、子供自身で着ることのできるデザインを考慮する必要があるのではなからうか。

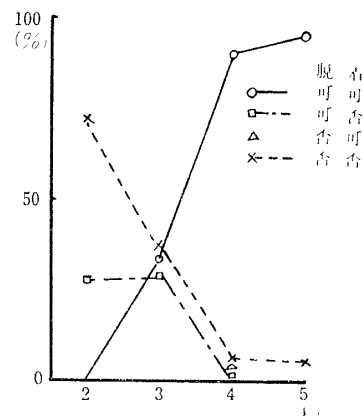
以上は、母親の観点による着衣の可否であるが、年齢別による「着る」「脱ぐ」の可能性は(第4図)、2才で脱ぐことのみできるようになり、その後3才、4才といずれも脱ぐことが着ることより上まわるが、5才になりほとんど「着る」



第4図

年齢による脱ぎ着の可能性

「脱ぐ」の可能性は一致する。つぎに、個人別に「脱ぐ」場合と「着る」場合を実際の観察に基く記録によれば(第5図)、「着る」「脱ぐ」いずれも可能な者は、2才にはなく、3才から始まり4才、5才と上昇するが、これと反対にいずれも不可能な者は、2才で非常に多いが、4才になると急激に少なくなる。換言すれば4才になれば、大半の幼児は1人で脱ぎ着ができることになる。また、「脱ぐ」のが可能で「着る」のが不可能な幼児は、2才と3才にみられ4才になると急激に少なくなる。また、一方「着る」のが可能で「脱ぐ」のが不可能な幼児は、4才に1人であとはみられなかった。この実態は、幼児にとっては「脱ぐ」ことより「着る」ことが困難であると言えよう。望月氏によれば、2才で「1人で衣服を脱ごうとする」、2才6カ月で「衣服の脱ぎ着を1人でしたがる」、5才で「1人で完全に着る」とあるが、以上の内容とほぼ一致した傾向がみられた。



第5図

脱ぎ着の可否 (個人別)

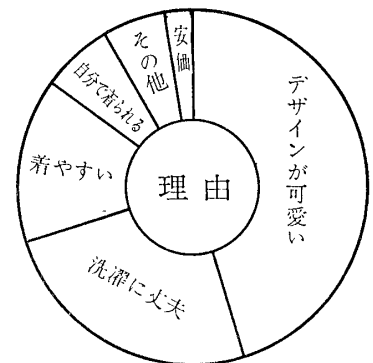
つぎに、留具と脱ぎ着の関係は、ワンピースにおいては、前述のように、後あきがほとんどを占め、5才で初めて着られるようになるが、ボタンは後あきの場合は6才で初めて極く少数の者のみ着られ、前あきの場合は3才から可能である。スナップの場合、後あきでは6才で初めて可能となり、前あきでは3才からすべての者が可能となる。

以上のことから、脱ぎ着の可否は、あきの位置、並びに留具の種類に影響され、具体的に前あきスナップが、ボタン、ファースナーに比してより容易であるといえよう。

b. 既製服について

(1) 選 択 理 由

「最近購入した既製服に対する理由」については(第6図), 「デザインが可愛い」が約半数の46%を占め, ついで経済的な面の「洗濯に丈夫」が25%, また「安価」というのがわずかながらあるが, これは, 特売のブラウスなどが含まれる. しつけの面から考えられる「自分で着られる」は, 僅かに7%にすぎなかった. この傾向からみても, 衣生活面のしつけとしての脱ぎ着を認識している母親が少なく, 親のみた可愛い子供服を選ぶ傾向は, 子供にとっては, 非常に迷惑なことと思われる.



第6図 選択理由

(2) 利用の理由

既製服を利用する理由については, 「すぐ間に合う」が最も多く, ついで「可愛いらしい」や「自分で作れない」が多かった. その他「安いから」や「見た目がきれい」との理由等が主なものであった.

(3) 利 用 度

既製服利用度の状態は(第4表), ワンピースでは, 何れの年齢においても日常着より外出着の方が著しく多いが, これに比し, ブラウスでは日常着の大部分が家庭仕立より多く既製品を利用している. しかしワンピース全体においては, 既製服と家庭仕立と同程度の率を示し, 5才, 6才においては, 家庭仕立に比較して既製品をより多く利用している. 既製服を選ばずに家庭仕立をする理由としては, 「残り布が利用できる」「安価である」が最も多く, ついで「洗濯しやすい」「少しできるので遊び着位作る」「好きなデザインができる」「寸法がかげんできる」「自分で作ったものを着せたい」と答えている.

年 令	ワ ン ピ ー ス						ブ ラ ウ ス					
	外 出 着		日 常 着		合 計		外 出 着		日 常 着		合 計	
	既製服	家 庭 仕 立	既製服	家 庭 仕 立	既製服	家 庭 仕 立	既製服	家 庭 仕 立	既製服	家 庭 仕 立	既製服	家 庭 仕 立
2	37.5	12.5	8.3	41.7	45.8	44.2	29.5	5.9	47.0	17.6	76.1	23.9
3	29.4	14.7	26.5	29.4	55.9	44.1	34.8	4.3	56.5	4.3	91.3	8.7
4	46.7	26.7	11.1	15.6	57.8	42.2	29.7	2.7	40.5	27.0	70.3	29.7
5	23.6	18.0	20.2	38.7	43.8	56.2	25.8	4.8	61.3	8.1	87.9	12.1
6	29.7	32.4	5.4	32.4	35.1	64.9	22.2	—	63.0	14.8	85.2	14.8

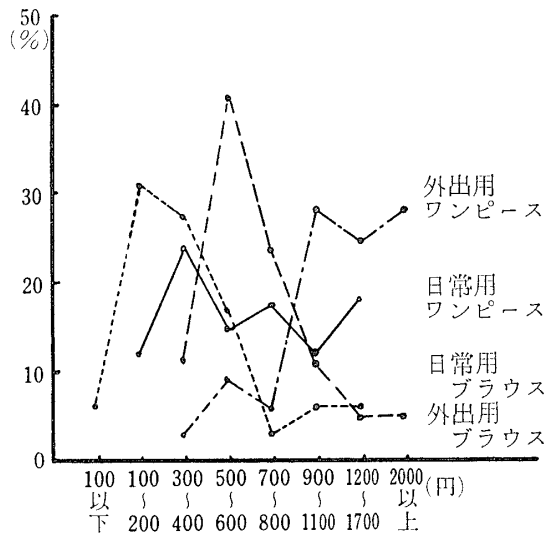
第4表 既製服の利用度(%)

(4) 選 択 者

既製服の購入にあたっての選択者は, 母親の場合が, 86%で最も多く, ついで子供の場合が9.5%, 店員, その他の場合が4.9%の順である. 母親の場合は, 前述の選択理由からも考えられることは, 子供の着る服というより, 親の着せたい服という感じが強く出ているが, 子供の関心も少数ながら注目に値するものである.

(5) 購入価格のめやす

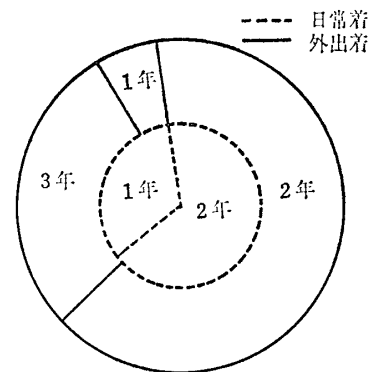
前項家庭仕立の理由に、「安価である」の理由が相当数みられたが、更にそれに関する価格のめやすでは（第7図）、外出着、日常着の用途別、或は夏物、冬物等の季節別により、またはワンピース、ブラウス等の服種によっても異なるものであるが、価格は最低100円から、最高4,000円までの差がみられ。一般的に、外出用ワンピースが最も高く、ついで特殊な外出用ブラウスを除いては、日常用のワンピースであった。また、全体の傾向としては、ワンピースにおいては外出用、1,000～2,000円、日常用は、400～500円、ブラウスでは、外出用は500～600円、日常用では、100～300円と望む者が多かった。一般的にやや安い傾向にあるのは、夏物衣料が多かったとも思われる。しかし、前述した既製服8月の調査での価格をみると、バーゲンセール等で特に安いものはあるが、全体としては、1,000円から3,000円位で、最高6,000円というものも見受けられ、婦人服に比べ、一般的に非常に高価な感じを受けた。



第7図 購入価格のめやす

(6) 着用年数

既製服の着用年数を何年位に考えているかに対しては（第8図）、外出着、日常着とも2年が最も多く、ついで1年であり、特に、外出着は3年、1年の順であった。外出着として、3年をめやすに置いた場合は、外出着としての良さ、或いは豪華さからくる価格の面で、容易に購入できず、その上着用回数の少ない点等から、消耗度が低い理由があげられよう。一方、1年のみとする場合は、その理由に「子供に合うもの」をあげているが、これは子供の体によく合う、更に新しい期間は外出用とし、2年目ころから古くなれば、日常着として着用することが予想され、幼児の著しい発達に相応した衣服の一つの着方であると思われる。



第8図 着用年数

(7) 希望条件

つぎに既製服に対する希望条件としては、種々意見が出たが、「ポケットを大きくしてほしい」が最も多くついで、「デコレーションが多すぎるので少なくしてほしい」「安価にしてほしい」「仕立方をていねいに」等がその主なものであった。最近の子供服の傾向として、価格が高く装飾過剰が見受けられ、また「ほころび易い」とか「ボタン、スナップがとれやすい」等の批判は度々耳にすることである。

(8) 古い服を着ない理由

「小さくなって着られない」が76%で最も多いのは、体によく合った服を購入する人が多くなったともいえるが、また最近のめざましい体位の向上と関連する点で、デザイン的面においても検討の余地がある。つぎに「色あせ」が15.2%あり、その他「流行遅れ」「やぶれ」がごく

少数あったが、「やぶれ」という理由がほとんどないのは、着用年数が比較的短いのと、近來の化学繊維の発達の目覚しさが原因しているものと思われる。

総 括

1. 名古屋市内その他のデパート幼児既製服売場において、夏、合服を調査した結果
 - 1) 装飾については、ブラウスよりワンピースの方が、種類、数ともに多く、装飾過剰の傾向がみられた。
 - 2) ポケットは、ワンピースのみに85%ついており、スラッシュポケットが多い。全体にポケットは小さかった。
 - 3) あきについては、夏、合服ともにワンピースでは、後あきが圧倒的に多く、留具としては、ファスナーが非常に多かった。
2. 女児服の家庭実態調査の結果
 - 1) あきの位置は、ワンピースにおいて各年令とも後あきが非常に多く、留具はファスナーが最も多かった。
 - 2) 着衣の習慣について、母親の意見は「3才、4才から始めたい」が、幼児の実態は、2才頃からできる子供もあり、6才になっても約10%の子供は、服の脱ぎ着ができなかった。この中でも、「着る」より「脱ぐ」方がし易い結果が出た。
この場合、脱ぎ着のできない服は、そのほとんどが後あきである。
 - 3) 既製服の利用度は、ブラウスが最も多く、ついで外出用ワンピースである。その理由としては、「すぐ間に合う」「可愛らしい」が多かった。また利用しない理由としては、「残り布が利用できる」「安価である」との回答がめだつた。そして既製服への希望としては、「装飾が多すぎぬように」「ポケットを大きく」「価格を安く」という希望が多く、「前あきに」「着やすいように」が少々みられた。

本調査を行なうにあたり、御協力いただいた名古屋汐路幼稚園長、知立猿渡保育園長、および本学短期大学部家政科の学生に感謝の意を表する。

参 考 文 献

- 1) 望 月 武 子 : (1966) 乳幼児の心理としつけ, 家庭科教育
- 2) 大 伴 茂 : (1960) 実験児童心理学
- 3) 松 村 兎 子 : (1964) 衣服を通してのしつけ, ママの洋裁
- 4) 松 村 康 平 : (1964) 被服心理からみたこども服, 衣生活
- 5) 中 西 登 : (1959) 児童心理学